



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月9日

上場会社名 ニチモウ株式会社

上場取引所 東

コード番号 8091 URL <http://www.nichimo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 和明

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員総務部長兼財務部長 (氏名) 八下田 良知 TEL 03-3458-3530

四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	64,783	12.1	1,303	24.3	1,450	60.3	1,058	137.2
30年3月期第2四半期	57,805	9.6	1,048	19.0	905	82.7	446	115.9

(注)包括利益 31年3月期第2四半期 1,000百万円 (132.8%) 30年3月期第2四半期 429百万円 (118.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	310.91	302.07
30年3月期第2四半期	131.03	127.66

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	80,071	15,345	19.0
30年3月期	68,744	14,503	20.9

(参考)自己資本 31年3月期第2四半期 15,215百万円 30年3月期 14,384百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期				50.00	50.00
31年3月期					
31年3月期(予想)				50.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	1.2	1,500	9.2	1,000	11.3	700	16.2	205.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	3,787,400 株	30年3月期	3,787,400 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	382,987 株	30年3月期	382,947 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	3,404,440 株	30年3月期2Q	3,404,882 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(追加情報) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか各種政策の効果などを背景に緩やかな回復基調が続いているものの、米国・中国の貿易摩擦の拡大による通商問題などの影響により、海外経済の不確実性や金融資本市場の不安定な変動が懸念されるなど、景気は依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような経済環境のなか、当社グループの事業基盤であります水産、水産加工・流通、食品の各分野におきましては、世界的な水産物需要の拡大による買付競争の激化や人手不足による生産や物流コストが上昇するなか、食の安心・安全の高まりから一部には価格よりも品質を重視した選別消費の動向が見られるものの、水産物の国内消費は減少傾向に推移するなど、引き続き厳しい環境下にありました。

こうした情勢のもとで、当社グループは、3ヵ年経営計画「第131期中期経営計画（100周年への飛躍）」の最終年度として、「浜から食卓まで」をカバーした当社グループならではの組織力を生かした積極的な営業活動に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は647億83百万円（前年同期比69億77百万円の増加）、営業利益は13億3百万円（前年同期比2億54百万円の増加）、経常利益は14億50百万円（前年同期比5億45百万円の増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億58百万円（前年同期比6億12百万円の増加）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

#### <食品事業>

すり身部門では、原料価格が上昇するなか、南米を中心に取扱量が増加いたしました結果、売上、営業利益ともに増加いたしました。鮮凍水産物部門では、カニは原料価格が高騰するなか、通販向けへの販売が堅調に推移し、売上、営業利益ともに増加いたしました。一方、北方凍魚は原料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、助子は人手不足による生産や物流コストの上昇分を製品価格に転嫁できず、それぞれ売上、営業利益ともに減少いたしました。加工食品部門では、価格競争が激化するなか、養殖銀ザケの取扱量の増加やコンビニ向け総菜の拡販に努めました結果、売上、営業利益ともに増加いたしました。

これらの結果、売上高は406億58百万円（前年同期比38億7百万円の増加）、セグメント利益は6億20百万円（前年同期比1億47百万円の増加）となりました。

#### <海洋事業>

漁網・漁具資材部門では、官公庁向け漁具資材や海外まき網用漁具資材などの販売が堅調に推移し、売上は増加いたしました。鮮凍水産物部門では、カニは原料価格が高騰するなか、通販向けへの販売が堅調に推移し、売上、営業利益ともに増加いたしました。一方、北方凍魚は原料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、助子は人手不足による生産や物流コストの上昇分を製品価格に転嫁できず、それぞれ売上、営業利益ともに減少いたしました。加工食品部門では、価格競争が激化するなか、養殖銀ザケの取扱量の増加やコンビニ向け総菜の拡販に努めました結果、売上、営業利益ともに増加いたしました。

これらの結果、売上高は96億32百万円（前年同期比8億66百万円の増加）、セグメント利益は4億62百万円（前年同期比17百万円の増加）となりました。

#### <機械事業>

機械事業におきまして、国内では豆腐業界向けを中心に製造プラントや工場建設にともなう大型案件を受注したことに加え、総菜業界や製麺業界向けに各種生産設備の受注が進み、また、海外では米国向け豆腐生産設備の大型案件などの受注を獲得するなど、それぞれ売上、営業利益ともに増加いたしました。

これらの結果、売上高は79億92百万円（前年同期比24億21百万円の増加）、セグメント利益は6億3百万円（前年同期比79百万円の増加）となりました。

#### <資材事業>

資材事業におきまして、化成品部門では、住宅用部材シートや印刷用フィルム、工業用粘着シートの販売が順調に推移し、売上、営業利益ともに増加いたしました。農畜資材では既存商材の拡販に努め、売上は増加いたしました。度重なる台風により農業用ハウス資材の受注が進まず、営業利益は前期並みとなりました。

これらの結果、売上高は53億70百万円（前年同期比87百万円の増加）、セグメント利益は1億78百万円（前年同期比30百万円の増加）となりました。

#### <バイオティックス事業>

バイオティックス事業では、大手健康食品メーカー向け「アグリマックス」や「イムバランス」素材販売は堅調に推移したものの、薬局向けOEM商品や「ファイトロゲン」などのサプリメントの販売が伸び悩み、売上高は1億63百万円（前年同期比8百万円の増加）、セグメント利益は15百万円（前年同期比2百万円の減少）となりました。

#### <物流事業>

物流事業では、九州地区における食品を中心とした運送業を展開し、継続して業務効率の改善に取り組んでまいりましたが、運送業界において深刻な人手不足による労働コスト上昇分を吸収できず、売上高は9億20百万円（前年同期比2億17百万円の減少）、セグメント損失は20百万円（前年同期は14百万円のセグメント損失）となりました。

#### <その他>

その他といたしましては、不動産の賃貸、人材派遣業を行っており、売上高は46百万円（前年同期比3百万円の増加）、セグメント利益は25百万円（前年同期比0百万円の減少）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資 産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は800億71百万円（前連結会計年度比16.5%増）となりました。総資産の増加は、主として売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

#### (負 債)

当第2四半期連結会計期間末における総負債は647億26百万円（前連結会計年度比19.3%増）となりました。総負債の増加は、主として短期借入金及び社債の増加によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は153億45百万円（前連結会計年度比5.8%増）となりました。純資産の増加は、主として利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、前回公表（平成30年5月11日）いたしました連結予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,264	7,400
受取手形及び売掛金	16,316	21,529
商品及び製品	20,947	24,753
仕掛品	561	826
原材料及び貯蔵品	3,662	4,374
前渡金	845	759
その他	898	718
貸倒引当金	△69	△76
流動資産合計	49,426	60,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,802	7,805
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,787	△5,866
建物及び構築物(純額)	2,015	1,939
機械装置及び運搬具	6,251	6,719
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,665	△4,809
機械装置及び運搬具(純額)	1,586	1,909
船舶	2,155	1,249
減価償却累計額	△899	△587
船舶(純額)	1,255	661
工具、器具及び備品	667	685
減価償却累計額及び減損損失累計額	△537	△557
工具、器具及び備品(純額)	130	127
土地	2,680	2,704
建設仮勘定	212	14
有形固定資産合計	7,880	7,356
無形固定資産		
のれん	197	175
その他	180	138
無形固定資産合計	377	313
投資その他の資産		
投資有価証券	10,059	11,083
長期貸付金	77	76
破産更生債権等	1,002	1,009
繰延税金資産	232	200
その他	696	712
貸倒引当金	△1,003	△1,009
投資損失引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	11,054	12,061
固定資産合計	19,313	19,731
繰延資産		
社債発行費	3	53
繰延資産合計	3	53
資産合計	68,744	80,071

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,511	15,368
短期借入金	22,069	30,048
1年内償還予定の社債	240	140
1年内返済予定の長期借入金	1,187	2,189
未払法人税等	239	405
賞与引当金	435	446
訴訟損失引当金	0	0
その他	2,620	2,469
流動負債合計	41,304	51,069
固定負債		
社債	180	2,160
長期借入金	9,994	8,493
長期未払金	53	18
繰延税金負債	1,121	1,360
役員退職慰労引当金	212	190
退職給付に係る負債	986	955
その他	389	478
固定負債合計	12,936	13,657
負債合計	54,240	64,726
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,411	4,411
資本剰余金	22	22
利益剰余金	11,449	12,337
自己株式	△1,084	△1,085
株主資本合計	14,798	15,686
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,602	3,184
繰延ヘッジ損益	△14	△10
為替換算調整勘定	△2,676	△3,360
退職給付に係る調整累計額	△324	△284
その他の包括利益累計額合計	△413	△471
新株予約権	118	130
非支配株主持分	0	0
純資産合計	14,503	15,345
負債純資産合計	68,744	80,071

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	57,805	64,783
売上原価	52,538	59,194
売上総利益	5,267	5,589
販売費及び一般管理費	4,219	4,286
営業利益	1,048	1,303
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	87	77
持分法による投資利益	185	190
為替差益	—	160
その他	64	68
営業外収益合計	341	500
営業外費用		
支払利息	230	226
為替差損	191	—
シンジケートローン手数料	9	71
その他	52	54
営業外費用合計	484	352
経常利益	905	1,450
特別利益		
固定資産売却益	4	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除却損	—	16
特別損失合計	—	16
税金等調整前四半期純利益	910	1,434
法人税、住民税及び事業税	429	366
法人税等調整額	34	9
法人税等合計	464	375
四半期純利益	446	1,058
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	446	1,058

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	446	1,058
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	361	585
繰延ヘッジ損益	20	4
為替換算調整勘定	△460	△684
退職給付に係る調整額	28	39
持分法適用会社に対する持分相当額	33	△2
その他の包括利益合計	△16	△57
四半期包括利益	429	1,000
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	429	1,000
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	910	1,434
減価償却費	360	385
のれん償却額	—	21
繰延資産償却額	1	1
賞与引当金の増減額(△は減少)	△17	16
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△3	△22
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△12	8
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△16	11
受取利息及び受取配当金	△91	△80
持分法適用会社からの配当金の受取額	17	20
支払利息	230	226
持分法による投資損益(△は益)	△185	△190
シンジケートローン手数料	9	71
有形固定資産売却損益(△は益)	△4	—
有形固定資産除却損	—	16
売上債権の増減額(△は増加)	△3,135	△5,417
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,647	△4,978
前渡金の増減額(△は増加)	△115	75
前受金の増減額(△は減少)	87	△87
仕入債務の増減額(△は減少)	2,571	944
その他	△760	482
小計	△7,802	△7,059
利息及び配当金の受取額	91	80
利息の支払額	△236	△223
法人税等の支払額	△317	△192
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△8,264</b>	<b>△7,394</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△144	△18
定期預金の払戻による収入	35	7
有形及び無形固定資産の取得による支出	△716	△186
有形及び無形固定資産の売却による収入	5	1
投資有価証券の取得による支出	△4	△4
子会社株式の取得による支出	△5	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△85	—
長期貸付けによる支出	—	△0
長期貸付金の回収による収入	4	2
その他	△39	△171
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△949</b>	<b>△370</b>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,557	7,959
長期借入れによる収入	1,100	100
長期借入金の返済による支出	△514	△598
社債の発行による収入	—	1,948
社債の償還による支出	△120	△120
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△170	△169
非支配株主への配当金の支払額	△0	△0
シンジケートローン手数料の支払額	△9	△71
その他	△25	△69
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,817	8,980
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	△93
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,585	1,121
現金及び現金同等物の期首残高	4,748	5,607
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,333	6,728

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	食品事業	海洋事業	機械事業	資材事業	バイオテ ィックス 事業	物流事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	36,850	8,766	5,570	5,283	154	1,137	57,763	42	57,805
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	103	676	49	111	—	17	958	—	958
計	36,954	9,443	5,619	5,394	154	1,154	58,721	42	58,764
セグメント利益 又は損失(△)	473	445	524	147	18	△14	1,595	25	1,620

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産賃貸業を営んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,595
「その他」の区分の利益	25
全社費用(注)	△571
四半期連結損益計算書の営業利益	1,048

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

マルキュー食品株式会社の全株式を取得し、連結子会社としたことにより、のれんの金額に重要な変動が生じています。当該事象によるのれんの増加額は、「食品事業」セグメントにおいて219百万円です。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	食品事業	海洋事業	機械事業	資材事業	バイオテ ィックス 事業	物流事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	40,658	9,632	7,992	5,370	163	920	64,737	46	64,783
セグメント間の内部売上高又は振替高	129	1,003	33	113	—	19	1,298	—	1,298
計	40,787	10,636	8,025	5,483	163	939	66,035	46	66,082
セグメント利益又は損失(△)	620	462	603	178	15	△20	1,860	25	1,885

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産賃貸業を営んでおります。

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,860
「その他」の区分の利益	25
全社費用(注)	△582
四半期連結損益計算書の営業利益	1,303

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。